二〇一七年七月七日

唄ふ輪の膨れてゆきぬキャンプ村　恵三
木下闇福耳揃ふ六地蔵　宏虎
水玉をまろばせあそぶ蓮の風　満天
一枚を古代米とす植田あり　たか子
園児バス窓に手を振る夏帽子　せいじ

二〇一七年七月六日

このあたり昔渚や月見草　恵三
瓜刻む音に炊事の主判り　ともえ
通学の自転車連ね青田道　さつき

二〇一七年七月五日

峰雲を出でし機窓に夕日差す　恵三
軽鴨の子の列につき行く朝散歩　さつき
潮風や風車の回る青岬　恵三
石塔に一条の日矢夏木立　隆松
椰子の木をまたぎてひらく揚花火　なつき

二〇一七年七月四日

雨意の空気にしつ日がな梅仕事　たか子
郭公の声に目覚めし旅の朝　智恵子
雲出でて大きな暈の梅雨の月　菜々
今年竹はや高々と空履きぬ　ぽんこ

二〇一七年七月三日

埋立ての沖広陵と大西日　やよい
妻機嫌厨に胡瓜刻む音　菜々

二〇一七年七月二日

つま先にコスモス触るるリフトかな　なおこ
水着干す宿の手すりに隙間なく　智恵子
逃げ場なきフロントガラス大西日　ぽんこ

二〇一七年七月一日

汗止めのねじり鉢巻溝掃除　せいじ
水平線まで紺碧や海開き　宏虎

僧どちもヨガの仲間に堂涼し　はく子

毎日句会みのる選・二〇一七年七月一五日